

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌



LEAF

令和4年6月
第44号
盛岡市三本柳 6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 久保直彦

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



写真：初夏の院庭

特集

地域医療連携室看護師長 就任ご挨拶
地域医療連携室からのお知らせ
新任医師・研修医の紹介

連載

シリーズ認定看護師（手術看護認定看護師）



地域医療連携室看護師長 川村 美奈子

日頃は当院の運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、地域医療連携室看護師長を拝命致しました。これまでは退院支援業務に携わっておりましたが、今年度より紹介患者さんの受け入れにかかわる前方連携も含め地域連携全般の業務に対応して参ります。

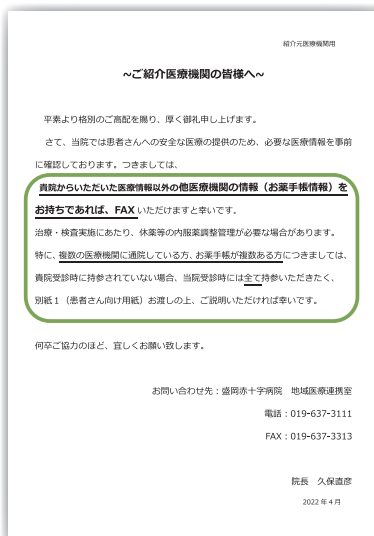
当院は地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関から患者さんを紹介して頂き、治療を終えた患者さんを地域の医療機関へお返しする連携を重視して参りました。今後ますます病診連携・病病連携がスムーズに進むよう努めて参ります。

また、地域住民の方々が住み慣れた地域での暮らしを継続していくためには、医療連携だけでなく、介護、福祉、保健も含めた連携が重要だと感じております。地域包括ケアシステムの中で地域に期待される当院の役割を担っていくためにも、地域の先生方にご指導を頂きたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。

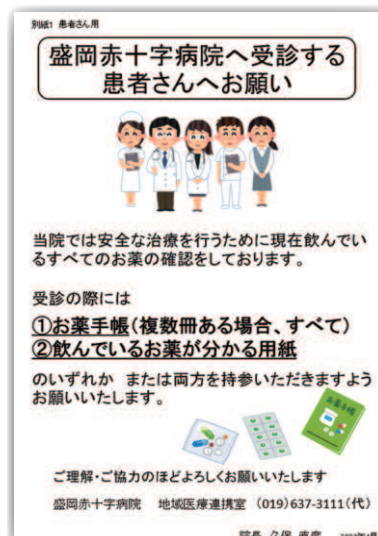
地域医療連携室からのお知らせ

令和4年4月より、紹介予約患者さんの予約受付票と共に、ご紹介医療機関様宛の「お薬手帳の情報提供のお願い」、患者さん向けの「お薬手帳を持参のお願い」の案内用紙をFAXしております。治療・検査にあたり、休薬等の内服薬調整が必要な場合があり、早期に把握することで、より安全に治療・検査に向けた準備ができるようになると考えております。

今後も安全な医療提供に努めて参りますので、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



医療機関向け資料



患者さん向け資料

新任医師のご紹介



循環器内科副部長 中村 真理絵

出身：岩手県盛岡市
一言：新しい環境で、慣れるまでに時間がかかるかもしれませんが、努力して参りますので、よろしくお願い致します。



第一小児科部長 小西 雄

出身：岩手県盛岡市
一言：小児のために頑張ります。よろしくお願い致します。



外科医師 佐々木 智子

出身：岩手県盛岡市
一言：4月から外科に赴任となりました。患者様の気持ちに寄り添った医療を提供できるよう頑張ります。よろしくお願い致します。



整形外科医師 谷藤 航

出身：岩手県盛岡市
一言：日々の診療を大切にし、より良い医療を提供できるよう努力します。よろしくお願い致します。



整形外科医師 成澤 将大

出身：東京都
一言：整形外科医としての医師人生がスタートし、日々業務に追われていますが、まずは健康第一で頑張りたいと思います。



産婦人科副部長 川村 英生

出身：岩手県
一言：皆様の力になれるよう頑張ります。



耳鼻咽喉科医師 日下 尚裕

出身：秋田県
一言：専門医試験に向け、様々な症例を経験し、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張ります。



研修医のご紹介



研修医 松川 英里

出身：広島県広島市
一言：早く盛岡での暮らしに慣れ、一人前の医師になれるよう励んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。



研修医 紺野 成顕

出身：千葉県
一言：右も左も分からないことだらけですが、医師として人間として成長できるよう、一所懸命に頑張りますのでよろしくお願い致します。



研修医 菅原 ももこ

出身：岩手県
一言：分からないことがたくさんありますが、精一杯頑張って参りますので、よろしくお願い致します。



手術看護認定看護師 齊藤 美香

私は手術看護認定看護師として、手術を受ける患者さんの思いに寄り添い、チームワークを大切に、術前から術後までより良い周術期ケアが提供できるよう連携していくことを目指し活動しています。

令和3年10月現在の岩手県の高齢化率は34.3%であるように、当手術室でも令和3年に手術を受けた65歳以上の患者さんの割合が4割を超えておりました。80代、90代の高齢患者さんの手術も非常に多くなっております。また、緊急手術の割合も15%以上を占めております。高齢患者さんや緊急手術の際は、二次的合併症のリスクも高くなります。そのような状況の中で、手術を受ける患者さんが、安全・安心・安楽に手術を受けることができることを手術室看護師の使命と掲げ、スタッフ一丸となり取り組んでおります。

当手術室での手術室看護師の取り組みの一部を紹介させていただきますと、ほぼ全例の患者さんへ担当する手術室看護師が術前訪問を実施し、直接患者さんのお話をお聞きし、手術に対する疑問や不安への対応をしています。また、術前訪問で得た情報をもとに、患者さん個々の体格や関節可動域を考慮し、安全な手術体位固定ができるように手術室の準備を進めます。手術中に発生する皮膚損傷を防止するためには、術前からの保湿ケアの指導や、皮膚の観察、予防ケアを実践し、手術創以外の傷を作らないことを目指し、看護ケアを行っています。また、手術後に起こるシバリング（震え）は、患者さんにとって苦痛であり、創治癒や心肺機能への負担も大きいことから、術前からの保温や術中の加温対策を実施し、体温低下・シバリング防止に努めております。

手術室内での取り組みのほか、病棟・外来看護師への周術期研修会なども担当しています。周術期に関連した、ご質問・ご相談等ありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

